

⑤6 環境保全に配慮した徳山下松港新南陽地区国際物流ターミナル整備事業

受賞機関 国土交通省 中国地方整備局
宇部港湾・空港整備事務所

キーワード 整備後の経済効果大、浚渫土砂で干潟造成

全建賞審査委員会の評価ポイント

国際バルク戦略港湾である山口県の徳山下松港で水深12mの国際物流ターミナルを整備するとともに、事業で発生する浚渫土砂の一部を有効活用して干潟を造成した事業。事業により、石炭の一括大量輸送が可能となり年間42億円の海上輸送コストが削減される点や、干潟造成場所がアサリ育成場となっている点も評価された。

1. はじめに

徳山下松港は、山口県瀬戸内海沿岸部の中央に位置し、背後には石油化学コンビナートを擁し、基礎素材型産業を支える工業港として、地域経済の発展に重要な役割を担っている。近年、新規の石炭火力発電所が建設されるなど、石炭等バルク貨物の取扱量が大幅に増加している。

しかし、既存施設では水深の不足等により大型運搬船に対応できず、非効率な海上輸送を強いられており、石炭の一括大量輸送に対応した施設の確保が課題となっていた。

2. 事業の概要

徳山下松港新南陽地区において、石炭等バルク貨物需要の増大に伴う、バルク船舶の大型化及び埠頭用地等の不足に対応するため、水深12mの国際物流ターミナルの整備を行い、平成28年度に完成した。

また、同事業で発生する浚渫土砂の一部を有効活用し、大島地区の裕・大島漁港区域内に大島干潟を、並びにN7土砂処分場近隣にN7干潟を造成したものである。



国際物流ターミナル整備事業 事業位置図

3. 事業の成果

本事業の実施により、30,000DWT級の貨物船による輸送が可能となった。船舶の大型化に対応したターミナル整備により物流の効率化が図られることで、年間約42億円の海上輸送コストを削減することができる。

また、人工干潟造成について、大島干潟ではアサリの漁獲量が年間を通じて2kg/m²以上で、目標値(0.5kg/m²)を上回ることを確認しており、アサリの育成場としての機能を果たしているとともに、アサリ以外の生物についても多数確認している。なお、大島干潟では毎年、地元小学生を対象に「海辺の自然学校」を開催しており、干潟の動植物の豊かさに触れる環境・体験学習の場としても活用している。N7干潟では、干潟生物及びバクテリアによる有機物の分解等により水質浄化等が図られ、浅海部では海藻類が確認されている。これらが広く分布して藻場を形成することで、多様な生物が生息する豊かな環境の創出が期待される。



大島干潟で確認された生物

4. おわりに

本事業では、港湾の施設整備と併せて干潟造成を行うことで、物流コストの削減・産業の競争力強化に加えて、海域環境の再生も図られるなど、多くの効果が発揮できたものと考えている。また、大島干潟では地元関係者により干潟の保全活動組織が立ち上げられており、地域活性化にも寄与することが期待されている。これらの取組みが、他事業においても参考になればと考えている。

賛助会員 いであ(株)、(株)エイト日本技術開発、五洋建設(株)、東亜建設工業(株)、東洋建設(株)、復建調査設計(株)、三井共同建設コンサルタント(株)